

先日は、手賀沼定例探鳥会にご参加いただき、ありがとうございました。観察会のレポートを作成しましたのでご覧ください。次回2月の「てがたん」は2月12日(土)で、「冬芽をみよう」がテーマです。ご都合のつく方は、ぜひご参加ください。

\*市民スタッフの方へ 次回のてがたん下見&打ち合わせは2月5日(土)です。よろしくお願いいたします。

## 1月の観察コースと内容

- コース：漁協前の岸→手賀沼遊歩道→カッパの像前→手賀沼遊歩道→市民農園近くの植生帯
- 観察日時/天気 2011年1月8日(土) 10:00~12:00 / 晴れ
- 参加者 29名(一般22名、子ども7名)
- 市民スタッフ 9名(青木義尚、加藤文雄、蒲田知子、木村稔、玄地昭八、須貝基康、竹本周平、弘實さと子、古川克彌、松村定雄、保田行弘)
- 鳥博職員 2名(斉藤安行、村松和行)

## 観察記録 - 1月に観察した生き物リスト-

### 【鳥類】

カイツブリ科：カイツブリ、カンムリカイツブリ/ウ科：カワウ/サギ科：ダイサギ、コサギ/カモ科：カルガモ、コガモ、オナガガモ/タカ科：ミサゴ、ハイタカ/クイナ科：バン、オオバン/カモメ科：ユリカモメ、セグロカモメ/ハト科：キジバト/カワセミ科：カワセミ/セキレイ科：ハクセキレイ/ヒヨドリ科：ヒヨドリ/モズ科：モズ/ツグミ科：ツグミ/ウグイス科：ウグイス/シジュウカラ科：シジュウカラ/ホオジロ科：ホオジロ/アトリ科：マヒワ、シメ/ハタオリドリ科：スズメ/ムクドリ科：ムクドリ/カラス科：ハシボソガラス、ハシブトガラス/外来種や家禽：コブハクチョウ、バリケン、ドバト

### 【昆虫・クモ】

イラガのまゆ

### 【花】

キク科：ノボロギク、セイヨウタンポポ/シソ科：ホトケノザ/ゴマノハグサ科：オオイヌノフグリ/アブラナ科：タネツケバナ/ナデシコ科：オランダミミナグサ/イネ科：スズメノカタビラ/ナスナ科：ナスナ/ツバキ科：カンツバキ(植栽)

### 【実・種】

バラ科：トキワサンザシ/クスノキ科：シロダモ/モクセイ科：ネズミモチ、トウネズミモチ/ウルシ科：ヌルデ/メギ科：ナンテン/ミズキ科：アオキ



# 1月の観察アルバム



今回のてがたんのテーマは「冬鳥をみよう」でした。手賀沼周辺でよく見られるユリカモメ、オナガガモ、ツグミを中心に観察しました。ヨシ原の鳥はあまり観察できませんでしたが、マヒワやシメなどの冬鳥やハイタカやミサゴのような猛禽類が観察できました。



今回の案内人：木村稔さん

- ① 漁協前ではオナガガモ、ユリカモメ、オオバンが多く見られました。オオバンの追いかけ合いや、ユリカモメの成鳥と幼鳥の羽色やくちばしの色の違いなどを観察しました。
- ② オオバンが多く見られました。よく観察すると、2羽ペアになって泳いでいる姿がいくつか見られました。おそらく体がやや小さい方がメスだと思えます。
- ③ 手賀沼遊歩道沿いでマヒワのメスを観察しました。今年、手賀沼周辺で多く観察されている冬鳥です。



- ⑥ 市民農園の近くの植生帯が広がる岸边は鳥が見やすく、カワウ、バン、コガモ、カルガモなどが見られました。今回は観察できませんでしたが、ここではシギの仲間がよく見られ、セイタカシギやイソシギなどが観察できるので、ぜひ足を運んでみてください。

- ⑤ ヨシ原ではスズメやシジュウカラが見られ、ヨシを割って餌を探す姿が観察できました。
- ④ てがたんの下見でオモトの実を見つけました。葉の形や斑を楽しむ園芸植物で、古くから親しまれてきました。リュウノヒゲと同じユリ科植物で、実を潰すと白い弾力のある種があります。

## 1月に見た冬鳥はどこからやってくる？

分布図の色 ■ 留鳥 ■ 夏鳥(繁殖地) ■ 冬鳥(越冬地)



**【分布】**  
主にユーラシア大陸の東部、西部に分布し、大陸中緯度地方では夏鳥としてみられ、日本では北海道で夏鳥、本州では主に冬鳥として落葉広葉樹や雑木林で見られる。

**【特徴】**  
体長およそ 18cm (スズメより大きい)。カワラヒワと同じアトリ科の鳥で、樹上や地上で植物の種子を食べる。太く大きくくちばしを持ち、堅い種子も割ることができる。



**【分布】**  
主にユーラシア大陸の東部、西部に分布し、ヨーロッパ大部分では留鳥、日本では北海道で夏鳥、本州では主に冬鳥としカラマツ林や落葉広葉樹、雑木林で見られる。

**【特徴】**  
体長およそ 12.5cm (スズメより小さい)。アトリ科の鳥で、樹上や地上で植物の種子を食べる。ピンセットのようなくちばしで、マツやモミの実をこじあげ、種子をとる。今年手賀沼周辺で多く見られている。

